



研究活動を支えてくれた工学分館

大学院情報科学研究科

山本 悟

最近ほとんど利用しなくなりましたが、ネットで論文が容易に手に入る前はよく利用していました。私の研究分野は数値流体力学(CFD)ですが、大学院生から助手になった当たりの1990年前半頃までは、ASME(アメリカ機械学会)やAIAA(アメリカ航空宇宙学会)のジャーナルは工学分館でしか手に入らなかったため、最新号が出るたびに工学分館に行き、ざっと目を通して、面白そうな論文をコピーして持ち帰ったものです。また当時 Academic Press (現在 Elsevier) のジャーナルだった Journal of Computational Physics は、特に CFD の数値解法が続々発表されていたことから、ずらっと並べられた分厚い各巻を取り出しては、役立ちそうな論文を念入りに探したものでした。現在のインターネット時代では、Google 検索すれば簡単に目的の論文が見つかり、東北大学内であればそのほとんどがダウンロードできますので、私もこの便利さに慣れてしまい工学分館に行く機会がめっきり減ってしまいました。そんな折、1年ほど前ですが所属する学会から、東北大学の名誉教授で現在の流体科学研究所の前身である高速力学研究所を創設した沼知福三郎先生の回顧記事の執筆を依頼されました。私の恩師である大宮司久明先生(現東北大学名誉教授)のさらに恩師に相当する先生ですので、私自身はほとんど情報を持っておりませんでした。いろいろ調べていくうちに、沼知先生の研究業績目録が工学分館に所蔵されていることを知りました。幸い工学分館から借りることで、事実上正確な回顧記事を執筆できました。ネットで簡単に論文が手に入る時代でも電子化されていない書籍はそれが所蔵されているところから入手しなければなりませんし、たとえば漠然と何かアイデアを見つけたときに印刷された書籍をペラペラめくるのは効果的です。設立から40年を迎え、工学分館の役割も時代とともに変わってきましたが、書籍を大量に保管する場所は青葉山にはここしかありません。貴重な書籍を後世まで所蔵することは工学分館の大事な使命の一つです。

